

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：37111

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530530

研究課題名(和文) 企業の人的資源管理と大学の職業的レリバンス 地域労働市場に関する調査研究

研究課題名(英文) Research Study on a College Student's Career Education Program

研究代表者

中川 誠士 (NAKAGAWA, Seishi)

福岡大学・商学部・教授

研究者番号：80180248

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円、(間接経費) 1,110,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本企業の人的資源管理の変化・変容と大学における職業的レリバンスの懸隔を補整することを目的として実施された。具体的には、日本企業の人的資源管理、とくに、地方中小・中堅企業の雇用戦略の変化・変容の様態を析出し、そこで発見されたインプリケーションを大学における職業的レリバンス形成にビルト・インすることで、より「実践的」「戦略的」な職業的レリバンス形成を可能とする教育プログラムの開発を行なった。

研究成果の概要(英文)：The main purpose of this study is to develop a college student's career education program. The feature of this educational program is the point that the trend of human resource administration is reflected in the educational program.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学

キーワード：経営学 教育学 人的資源管理 職業的レリバンス 地域労働市場

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 企業の人的資源管理の変化・変容に影響されこのような「日本的雇用システム」の制度や内容、構成は、近年、変化・変容している。その結果、大学生が大学生活を通じ修得すべき適性や能力はこれまでとは大きく変化してきている。

(2) ユニバーサル段階を迎えた大学は、現在、学校から職場への移行支援を喫緊の課題としている。しかし、日本企業の人的資源管理の変化・変容にもかかわらず、大学で実施される職業的レリバンス形成やキャリア形成支援は必ずしもその実相をとらえているとは言えない。

(3) したがって、本研究では、職業レリバンスやキャリア形成支援のより「実践的」「戦略的」な職業教育・キャリア教育制度を設計・構築することで、日本企業の人的資源管理と職業的レリバンス形成の懸隔を補整することを試みた。

## 2. 研究の目的

本研究は、日本企業の人的資源管理の変化・変容と大学における職業的レリバンスの懸隔を補整することを目的とした。

具体的には、日本企業の人的資源管理、とくに、地方中小・中堅企業の雇用戦略の変化・変容の様態を析出し、そこで発見されたインプリケーションを大学における職業的レリバンス形成にビルト・インすることで、より「実践的」「戦略的」な職業的レリバンス形成を可能とする教育プログラムを開発した。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究は、企業チームと教育チームに大別され、両チームを研究代表者(中川誠士)が統括するといった研究組織のもと研究を遂行した。

(2) 研究は理論研究と実証研究から構成された。

理論研究においては、それぞれの研究者が自身の研究の過程で明確化してきた問題意識を研究課題の文脈に立ち再構成・再構築した。理論研究では、問題意識と理論仮説を実証・実態レベルに具体化するための前提を獲得した。

実証研究は量的研究と質的研究から構成され、両チームとも両アプローチを通じインプリケーションの析出を行なった。

企業チームは、統計資料の分析や個別企業・ハローワークの実態調査を通じ、また、教育チームは、質問調査や大学におけるセミナーの実施や大学就職部・キャリアセンターへ調査を通じ理論仮説の妥当性の検証と実

証研究を通じて理論仮説を証明した。

## 4. 研究成果

(1) 本研究は、日本企業の人的資源管理の変化・変容と大学における職業的レリバンスの懸隔を補整することを目的として実施された。具体的には、日本企業の人的資源管理、とくに、地方中小・中堅企業の雇用戦略の変化・変容の様態を析出し、そこで発見されたインプリケーションを大学における職業的レリバンス形成にビルト・インすることで、より「実践的」「戦略的」な職業的レリバンス形成を可能とする教育プログラムの開発を行なった。

(2) 地方労働市場の研究(企業チーム)では、とくに、九州に拠点を置く自動車ディーラーの営業職に対する人的資源管理の近年の動向と課題を明らかにした。インタビュー調査においては、とくに「地域性」「地域における文脈(コンテクスト)」に重点を置き調査を行った。インタビュー調査では、九州という「地域」の中で、「地域」がもつコンテクストに親和的な営業職の育成といった人的資源管理の特徴を析出することができた。インタビュー調査に基づく質的研究と同時に、地域性が大学生の雇用問題に与える影響に対して量的な研究が実施された。

(3) 大学におけるキャリア教育(教育チーム)では、福岡大学の学生に対する教育実践(キャリア教育)を通じ、「職業的レリバンス」を強く意識した教育プログラムの開発を行なった。教育実践では、企業チームが明らかにした、人的資源管理の近年の変化をその教育実践に折り込むことで、より「地域」といった文脈を意識したプログラムの開発を行なった。

(4) 本研究における研究成果およびその社会への還元は、大学生に対する入門書の刊行によっておこなった。『大学生になるってどういうこと 学習・生活・キャリア形成』(大月書店、2014年)また、「福岡県男女共同参画センター 平成25年度 大学連携・若年者スタート事業・シリーズ働くを考える」においてその研究成果の一部を社会に還元した。

(5) 研究代表者及び研究分担者は以下のような研究を実施した。

中川：主に、人的資源管理の経営学説史研究を担当し、アメリカ(主にテイラー)および日本(主に馬場克三)の経営学説の検討を行った。

藤野：九州に拠点を置く企業へのインタビュー調査を実施し、人的資源管理の近年の動向を明らかにした。

島内：自動車ディーラーの営業職の育成の

あり方と近年の動向を、インタビュー調査によって明らかにした。

原：経済及び社会の動向が、近年の企業における雇用管理に与える影響に関して、就業・賃金の側面から分析した(労働需要面)。新規大卒者の雇用動向に対して、家庭環境が与える影響についてデータに基づき検討した(労働供給面)。

寺崎：大学で学ぶことの意味や学びをどう保証するかという高等教育の質保証に関する議論と、大学出口でのスムーズな労働市場への参入を目的とするキャリア教育の議論との接合を目指し、教育実践を通して方法的・理論的な検討を深めた。

植上：大学生・大学卒業生への聞き取り調査、大学生のキャリア形成に関する教育実践とその分析などを中心に実施し、その成果を研究会・学会での報告、著書や報告書の作成という形でまとめた。

杉田：地方に所在する、入試による選抜性の低い大学に通う学生の進路選択と初期キャリアの構築過程を明らかにするために、金沢大学大学院教育学研究科(修士課程)の黒田恵子とともに、ある保育系私立大学を2012年に卒業した若者たち8名を対象としたインタビュー調査を計画し、実施した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 16 件)

寺崎里水、大学進学によって追いつめられる若者 セーフティーネットとしての学校教育、福岡大学人文論叢(福岡大学) 査読無、第45巻4号、2014、409-424頁。

杉田真衣、生活指導研究は親密な関係をどう論じてきたか、生活指導研究、査読無、第30号、2013、5-12頁。

植上一希、3・11後の若者の変化と主体形成の捉え方 大学生・大学教育を事例として、経済、査読無、第210号、2012、88-97頁。

藤野真、地方労働市場と大学のキャリア教育に関する研究、福岡大学商学論叢(福岡大学) 査読無、2012、341-355頁。

原みどり、企業経営と若年層の賃金・就業構造の変化、工業経営研究(工業経営学会誌) 査読有、2012、第26号、16-27頁。

島内高太、中核技能者要請を支える企業内訓練校の教育体制 日本企業における競争力基盤づくりの現状と課題、若者の雇用と人材育成(労務理論学会誌) 査読有、第21号、2012年、321-346頁。

藤野真、新卒労働市場の構造と大学生の就職 中小企業の労働問題を中心に、査読無、福岡大学商学論叢(福岡大学) 2011年、339-351頁。

〔学会発表〕(計 9 件)

藤野真、グローバル人材と日本企業における人的資源管理の懸隔、国際シンポジウム・アジアの時代の日本企業 グローバル人材育成の現状と課題、2013年11月30日、阪南大学(大阪府)。

原みどり、地域性及び家庭環境が大学生生活と雇用問題に与える影響、中央大学企業研究所公開研究会、2013年5月30日、中央大学(東京都)。

Satomi Terasaki, Yuri

Nakashima, Research study on transition support for intra-regional minority type on university students, Asia-Pacific Educational Research Association International Conference 2012, December 6 2012, University of Sydney(Sydney, Australia)

Satomi Terasaki, Noriko

Kanie, Relationship between Family Income and Educational Investment in Children in Japan, International Federation for Home Economics XX World Congress, 18 July 2012, The Melbourne Convention and Exhibition Centre(Melbourne, Australia)

植上一希、ノンエリート大学生の進学と学び(1)、日本教育学会、2011年8月25日、千葉大学(千葉県)。

寺崎里水、ノンエリート大学生の進学と学び(2)、日本教育学会、2011年8月25日、千葉大学(千葉県)。

島内高太、企業内訓練校における人材養成の現状と課題 日本自動車企業2者の比較分析を中心に、比較経営学会、2011年5月14日、同志社大学(京都府)

〔図書〕(計 6 件)

寺崎里水・植上一希・藤野真、大月書店、大学生になるということ 学習・生活・キャリア形成、2014、185頁。

高妻紳二郎・寺崎里水・佐藤仁・他、ミネルヴァ書房、新・教育制度論 教育制度を考える15の論点、2014年、227頁。  
耳塚寛明・寺崎里水・中島ゆり・他、金子書房、学力格差に挑む、2013年、149頁。

宮本みち子・植上一希・国広陽子・他、国立女性教育会館、男女共同参画の視点に立った若者のキャリア形成支援ハンドブック、2013年、232頁。

小笠原英司・中川誠士・片岡信之・他、文真堂、日本の経営学説、2013年、218頁。

乾彰夫・杉田真衣・船山万里子・他、大月書店、高卒5年 どう生き、これからどう生きるのか、2013年、368頁。

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中川 誠士 (NAKAGAWA, Seishi)  
福岡大学・商学部・教授  
研究者番号：80180248

### (2) 研究分担者

寺崎 里水 (TERASAKI, Satomi)  
福岡大学・人文学部・准教授  
研究者番号：70432028

植上 一希 (UEGAMI, Kazuki)  
福岡大学・人文学部・准教授  
研究者番号：90549172

藤野 真 (FUJINO, Makoto)  
福岡大学・商学部・准教授  
研究者番号：40454946

島内 高太 (SHIMAUCHI, Kota)  
拓殖大学・商学部・准教授  
研究者番号：30450034

杉田 麻衣 (SUGITA, Mai)  
金沢大学・学校教育系・准教授  
研究者番号：50532321

原 みどり (HARA, Midori)  
中央大学・商学部・助教  
研究者番号：60566595

### (3) 連携研究者

なし